

第2回 蓄電池産業戦略検討官民協議会 議事要旨

日時：2022年2月9日

場所：オンライン会議

議事要旨

資料1～3につき、事務局より説明

資料4につき、国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構より説明

参考資料1～2につき、事務局より説明

メンバーからの発言要旨は以下の通り。

1. 蓄電池の生産基盤強化について

- ・目先のことだけではなく、10年後、20年後にどうやって勝てるのか、グローバルマーケットが大きくなる中で、ストーリーを描いて投資すべき。
- ・価格競争は避けて通れない。グローバルなベンチマークを行ってどこを強化して、どうやってコスト競争力、高品質・性能を維持していくのかが重要。
- ・2030年の生産規模を実現する為には、時間はない。量の拡大は今の仕事のやり方では到達できない。DXもひとつの手段。業界全体でスピードアップが必要。
- ・生産規模の目標設定は、日本でどれだけ、日系としてどれだけ、という形で目標を置きつつ、モデル（三元型、リン酸鉄など）ごとのバランスを取りつつ、具体的な目標を置くことが重要。

2. 蓄電池の上流資源確保について

- ・上流資源の確保は、リスクを感じている。安定供給に向けた一定の備蓄など、国がリスクを緩和する施策に期待。
- ・リスクのある事業を取っていく必要あり。融資の条件を、よりリスクテイクできる形にしてもらえるよう検討してほしい。
- ・産地が限られる資源は、グローバルに争奪戦となることが必死。よりリスクが高いところに投資することや、自主開発を考えることは、取組として重要。投資家の目線から環境・人権などの対応も重要。

3. 研究開発イノベーション・人材育成について

- ・蓄電池の開発は、関連する企業が多く、開発から量産まで時間軸が長いことが課題。スピード感を上げるために、素材からシステムまで一貫で、サプライチェーン関連企業を束ねたプロジェクト型の支援も検討してほしい。
- ・電池技術だけでなく、制御系やシステムで一步先に行くことも重要。
- ・人材育成・確保は今後不可欠。電池業界、部材業界の学生・若者に対して、魅力や求心力を打ち出していく必要あり。
- ・日本メーカーの市場シェアが縮小する中、受け皿が無くなっていくことにより、人材の流出も課題。また、若手だけでなく、働きざかりの人達に対しても、電池業界に関連した教育・育成ができないか。